

令和4年度 1人1台端末の活用による実践事例

学校名		岡山県立新見高等学校南校地		
実践者等		岡 利英	実践日	令和4年度4月以降
実践場面 <small>(教科・科目(単元名)、学校行事等)</small>		日常のあらゆる場面		
対象生徒(学年等)		2年		
育成を目指す資質・能力		<input type="checkbox"/> 知識・技能 <input type="checkbox"/> 思考力・判断力・表現力等 <input checked="" type="checkbox"/> 学びに向かう力・人間性等		
分類	授業中	<input checked="" type="checkbox"/> クラウドやアプリの活用 <input type="checkbox"/> デジタルデータの保存 <input type="checkbox"/> 思考やデータの可視化 <input checked="" type="checkbox"/> データの共有や共同編集 <input type="checkbox"/> 対話を充実させる活用 <input type="checkbox"/> 思考を促す活用 <input type="checkbox"/> 表現を充実させる活用 <input type="checkbox"/> 課題のやり取りと評価の支援 <input checked="" type="checkbox"/> 効率化や省力化 <input type="checkbox"/> その他()		
	家庭学習	<input checked="" type="checkbox"/> 振り返り <input type="checkbox"/> 探究 <input type="checkbox"/> 反転学習 <input type="checkbox"/> 補習・定着		
	実践の内容			
<p>メモアプリ「Google Keep」をクラスで共有し、掲示板として利用している。</p> <p>*****</p> <p>一人一台端末が導入されて以来、最も利用頻度が高いのは Classroom である。学年・クラス・授業・部活動など様々な単位で開設されており、例えば本校では</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 日々の連絡事項のストリームへの書き込み ✓ 週末課題一覧・定期考査範囲一覧の掲載 ✓ 課題および小テストの配信/回収 ✓ 総合的な探究の時間における資料の配布 <p>といったことに活用されている。また、導入初期こそただ投稿するだけであったが「後から見返すのが大変」との生徒の声を受け、“トピック”による仕分けを行うなどよりよい運用方法を模索している。</p> <p>ところが、以下の理由により Classroom の利用に難を覚えるようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ Classroom 数が増大し、目的の Classroom を探すのが手間。 ✓ オンスクリーンキーボードでの入力が手間。 ✓ Classroom の立ち上がりが遅い場合、あるいは立ち上がらない場合がある。 <p>そこで、クラスにおける連絡事項の伝達については「Google Keep」を活用することとした。具体的には、担任・副担任・生徒でメモファイルを共有し、掲示板のように連絡事項を書き込んでいる。</p> <p>ペンでの手書き入力ができ、ユーザー間でファイルを共有できるアプリであれば、掲示板としての役割は果たせる。当初は「Jamboard」や「Google スライド」も候補として考えたが、私自身「Google Keep」を日常的に使用しており、文字だけでなく音声や写真でもメモができる点が非常に便利であり、生徒への普及の意味も込めてこのアプリを選択した。</p> <p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペン入力なので短時間で書き込める。 ・アプリがすぐに起動する。 <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指でも書き込めるが、スタイラスペンでないと細かい字を書くのが難しい。 (本校はペン購入が任意) 				
<p>【本時と家庭学習との連動】</p> <p>(本時前)</p> <p>(本時後)</p>				